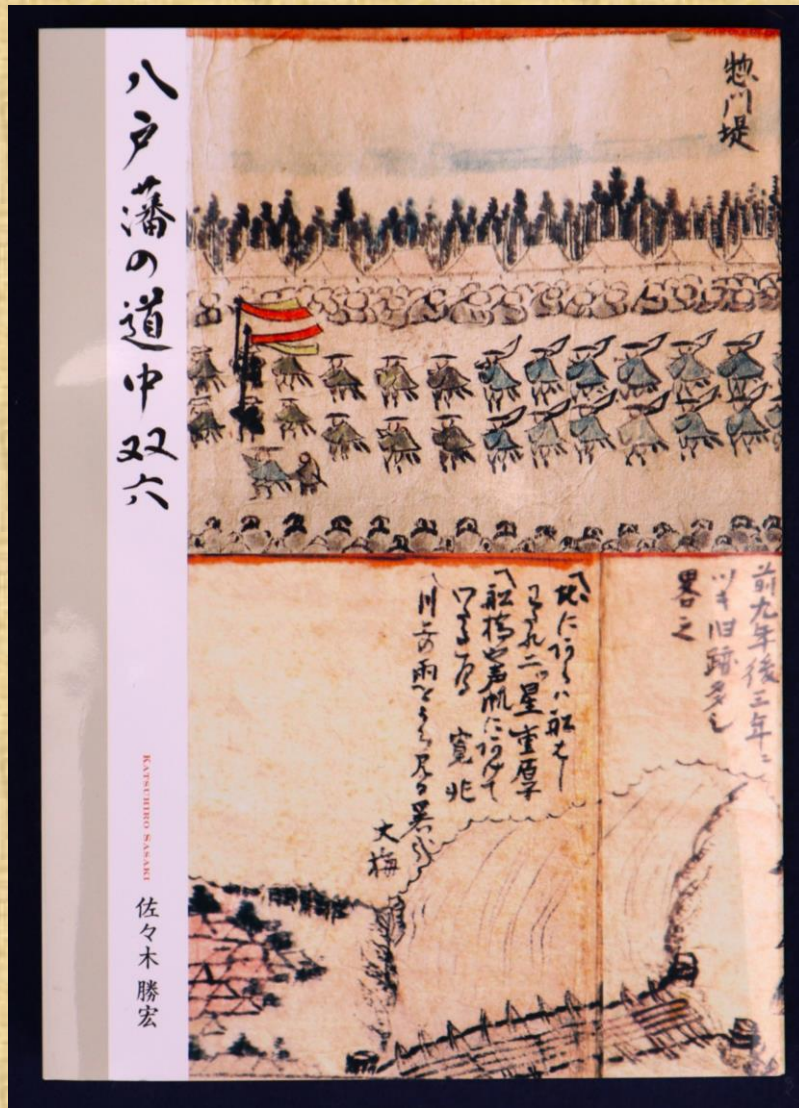


八戸藩の道中双六

遊びながら学ぶ智慧



と き：令和7年7月5日（土）13時から15時

ところ：八戸ブックセンター読書会コーナー

主 催：旧八戸藩の文化財を伝承する会

共 催・問合先：特定非営利活用法法人北さんりく創研

Tel 0194-53-3808

風流新板東山道 八戸より江戸まで道中双六

これが双六の本当の名前です。八戸を振り出しにあがりの東都（江戸・東京）まで、参勤交代で歩いて行きます。旅の楽しみは名物を味わい、名所を見学すること。俳諧（俳句）が流行していましたから、歌枕や松尾芭蕉の俳句紹介ははずせません。その土地に因んだ句を紹介したり、詠んだりしています。作者は三峰庵寛兆さん。残雪が白い名久井岳を彷彿とさせる庵名です。本名は七崎屋の松橋宇助さんです。南郷にお墓があります。八戸御家中と呼ばれる八戸藩士たちが恥をかかないように、遊びながら事前学習をしたと思ってみてください。ユーモアたっぷりでクスッとしてしまいます。



話す人：佐々木勝宏
岩手県宮古市生まれ。高校教員や学芸員をしていました。東日本大震災以後、被災文化財のレスキュー、調査研究や修理に携わっています。尊敬する人は初代八戸藩主直房夫人霊松院。心優しく気配りのある人で、八戸藩の礎となった人です。

寂聴先生と被災地を廻って沢山の財産をもらう